

1 めざす学校像・重点目標

「安心して安全に生活でき、一人一人が力を発揮できる学校」

重点目標

(1) 生徒に寄り添った指導

- ・自分を大切にする心、人を思いやる心、感謝する心を育成する。
- ・生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努め、学校として組織的に対応する。
- ・保護者と問題を共有し、関係機関等との連携を深める。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

- ・タブレット端末の活用などICT教育を推進し、自ら課題解決に臨む態度を育てる。
- ・言語活動を充実させ、社会生活に生かせるコミュニケーション力の向上を図る。
- ・生徒一人一人が十分に思考し、他者との対話の中で解を導く力を高める。
- ・PDCAサイクルに基づいて指導と評価を繰り返し、基礎学力の向上と定着を図る。

(3) 生徒の適性を重視したキャリア教育

- ・個々の障害や発達段階に応じたキャリア教育を実践する。
- ・多様な進路希望に対応できるように、情報の収集と発信に努める。
- ・多様なニーズに応じ、社会に開かれた教育の拡大と発展を図る。

2 評価結果と課題

(1) 生徒に寄り添った指導

- ・授業以外の場面でも、保健室利用時や避難訓練等において生徒の実態に合った指導を行い、少しずつそれぞれの成果が出てきている。
- ・生活アンケートを実施し、生徒の心情変化の把握や共有を行った。重大事態に発展することを防ぐことができた。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

- ・教職員相互の授業参観や手話講座、ICT機器活用の学習会などを通じて授業力の向上を図った。
- ・授業以外でも生徒同士の対話の場を設け、主体的に行動できる生徒の育成に努めた。

(3) 生徒の適性を重視したキャリア教育

- ・進路指導部で進路の手引きを作成しているが、十分に活用されていないようである。保護者への伝え方や活用場面を検討していきたい。

部・校務	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>中学部</p>	<p>・課題解決に向けて生徒が支え合い、話し合う授業づくり</p>	<p>・タブレット端末の活用や言語活動の充実を図り、他者との会話等から新たな学びを得られる機会をより多く設定する。</p>	<p>・タブレット端末の活用や話し合い活動の他、体験活動も多く取り入れて授業を行った。体験や友達との話し合いなどを通して自分の考えをまとめたり、深めたりすることができた。</p> <p>・重複障害学級でも生徒の能力に応じてタブレット端末を積極的に活用できるよう工夫し、より充実した授業を行えるようにしたい。</p>
<p>高等部</p>	<p>・思考力や表現力を育てる授業づくり</p>	<p>・社会的自立に向けて、外部関係機関との連携を深めたり、ICT機器を効果的に活用しながら学び合ったりする授業を行う。</p>	<p>・外部関係機関との連携では、今年度も大学や高校、企業などと連携して授業を行うことができた。社会自立に向けて見通しをもったり、経験したりしながら学習を進めることができた。</p> <p>・ICT機器の活用については、高等部職員のうち94.3パーセントが授業で活用しており、話し合い活動にはロイロノート、課題提出にteamsを使うなど学習場面に合わせた使用方法が進んできている。授業での具体的な活用例を高等部職員から集約し共有しているので今後より意見交換しながら効果的に使える方法を考えたい。</p>
<p>総務部</p>	<p>・保護者への情報の発信、共有と、PTA活動の充実</p>	<p>・役員会や懇談会等にて保護者への情報伝達、情報交換を行い、その内容を踏まえ、よりよい学習環境の構築を図る。</p> <p>・見やすい掲示板のレイアウトを工夫し、情報を伝える。</p>	<p>・マチコミや総務メールで保護者に密に情報を伝えることができた。</p> <p>・役員会にて話し合いの内容を充実させることができた。今後はPTA活動の精選、スリム化を図りたい。</p> <p>・学校掲示について、担当と連携し、見やすいレイアウトができた。</p>
<p>教務部</p>	<p>・生徒の家庭でのICT機器の活用方法の集約</p>	<p>・家庭学習やプリント学習時の課題においてタブレット端末を活用できる取組を考える。</p>	<p>・重複障害学級の生徒が家でタブレット端末を使うきっかけとなった。保護者からもよい意見をいただいた。今後継続して活用できるかどうか</p>

			かは担任や保護者によることが課題である。
教育 情報部	・ICTを活用した学校全体の業務改善や効率化の推進	・ICT支援員を効果的に活用し、専門的な知識を得られるようにする。 ・学習支援サービスの活用に関する学習会を開催する。	・教員用端末更改日に合わせICT支援員の来校日を設定し、教育情報部職員と共に新端末の設定や新システムの研修を行えた。 ・新システムに関しては、事前準備や告知を行うことで、混乱なく移行を完了できた。 ・学習支援サービスの活用が進むよう、少人数の学習会を開催した。
生徒指導支 援部	・実践的な訓練や活動の計画、実施、及び、教職員、生徒の防災意識の向上	・地域の消防局や消防署と連携し、体験的な訓練を実施する。 ・安全や防災に関連する話題を定期的に発信する。	・実際の災害時を想定して避難経路を一部封鎖したり、集合場所を放送で連絡したりするなど、訓練内容を工夫した。参集後の生徒・職員の点呼、人員報告について課題を整理し、改善を図った。 ・生徒集会で防災等の話題を定期的に取り上げ、生徒同士で対応等について話し合う時間を設け、生徒については意識の向上が見られた。教職員についても、前述の訓練内容等の見直しにより、放送をよく聞き、状況に応じて対応しようとするなどの変容が見られた。
進路 指導部	・進路情報に関する教職員、生徒・保護者への周知の充実	・進路指導の手引きを見やすい形に改訂し、手引きの存在を改めて周知する。 ・事業所見学会の充実を図る。	・進路指導の手引きを改訂し、マチコミにて周知した。また、改訂日以降の進路希望調査にも手引きの存在を明記した。事業所見学会については2月に実施予定である。 ・手引きの活用方法や事業所見学会の時期、在り方が今後の課題である。
保健 体育部	・けがをした時や体調が悪い時の相手への正確な状況の伝達 ・災害時などを想定した、自分だけではなく周囲の状況の正確な伝達	・保健室に来室した際の来室記録は、生徒が振り替えられるよう正確に記録するよう伝える。 ・防災訓練時、状況を正確に伝えられるよう引き続き訓練をする。	・来室記録の記入は、以前に比べスムーズに書くことができてきている。情報伝達訓練では、多くの生徒が、手話の通じない相手に対し状況を正確に伝えようとする様子が見られた。

自立 活動 研修部	・教職員全員の手話のスキル向上と聴覚障害教育の専門性を高める 研究・研修の充実	・教職員相互に授業参観をし、相互に学び合う。 ・校外の専門家を活用し、研究・研修会や学習会の充実を図る。 ・校内外の研究・研修会や学習会を周知徹底し、積極的な参加を促す。 ・手話表現や授業、研修会などの動画資料を充実させる。	・年間を通じて教職員相互の授業参観を実施し、校内職員による手話講座初級を4回、聾の外部講師による手話講座中級を10回、言語聴覚士による発音指導に関する講演会を実施するなど、豊富な研究・研修の機会を作り、動画資料でも学べるようにした。各研修の参加者を増やすための取組が課題である。
-----------------	--	---	---

いじめ防止に向けた取組

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導支 援部	・いじめの早期発見と認知、及び、組織的な対応	・年に3回、生活アンケートを実施し、生徒の心情の変化を把握する。 ・生徒情報を積極的に共有する。	・年に3回、生活アンケート及び個別面談を実施し、生徒の心情変化の把握及び共有に努めた。毎週、生徒情報交換会を行うことで、生徒に関わる情報を迅速に共有することができた。また、必要に応じてケース会や生徒支援委員会につなぎ、重大事態発展を防ぐことができた。昨年度課題に挙げたいじめ事案報告書については、担任等が直接記載するような形では活用できていないが、小さなトラブルも含めて随時生徒指導支援部に情報共有する流れができていたため、その記録として活用している。

多忙化解消に向けた取組

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
	・教職員の協働した業務による、仕事の効率化や在校時間の更なる縮小	・主任を中心に各部署での同僚性を更に高め、学年や校務分掌、教科等で協働するとともに、校務支援員を効果的に活用する。 ・月の平均施錠時刻や在校時間について、定期的に管理職会、運営委員会で提示し、現状把握や改善点の検討をする。	・部主事や主任が声をかけ、必要に応じて業務の分担を調整したり、会議の紙面開催や教材データを共有したりし、負担軽減につながった。月の平均施錠時刻は昨年度と比べ、平均約15分程度早まった。改善の余地があると考えられる部活動指導、業務のマニュアル化、行事の回数と規模等について、再度、業務の見直しをしていきたい。

